

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104249		
法人名	株式会社 MURO		
事業所名(ユニット名)	グループホーム 太陽のおうち いこいユニット		
所在地	和歌山県和歌山市山口西385-1		
自己評価作成日	平成24年9月14日	評価結果市町村受理日	平成24年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/infonati/onPubl i c.do?JCD=3070104249&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成24年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲には、山や田んぼがあり、窓をのぞくだけで、季節を感じることができ、ゆったりと穏やかに、自由に(その人らしく)過ごせている。地域の方々の協力もあり、外出して近所のおうちを訪ねても、笑顔で対応していただき、入居者は穏やかに「近所に行ってきた」と話してくれます。そのような、地域との関係づくりを構築しています。また、月に1回絵手紙教室を開催しており、外部からも習いに来ています。スタッフ教育に関しては、医療、介護両面の勉強をしています。接遇も徹底しており、よりよいサービスを心掛けています。ご家族の面会も多く、ご家族様同士仲良くしています。地域の幼稚園児達が、クリスマスに訪問してくれ、触れ合っています。

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)

事業所は自然豊かな田園の中に位置しており、のどかな雰囲気にも包まれている。利用者はゆったりとした気分で日々を過ごし、職員も又ゆったりとした対応を心掛けている。管理者をはじめ職員の中にも、医療現場での経験を持つスタッフが在籍しており、利用者の体調の変化には常に、十分な注意を払っている。事業所全体で医療・介護両面の研鑽を重ねている事が、医療機関との円滑な連携に繋がっている。又地域に向けての行事を数多く開催すると共に、災害時の避難場所として建物や備蓄品を提供する等、地域の一員としての役割を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で理念を共有しており、理念に基づいて支援を行っている。	理念を各ユニットのホール及び事務室に掲げている。また、職員への周知や職員間での共有が徹底されている。管理者と職員は日々のケア実践のなかで、自己点検、相互確認を行いながら、理念の具体化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に行った時、地域の方とあいさつをしたり、話をしたりしている。地域の方々も気にかけてくれており、入居者が一人で歩いていると、電話で知らせてくれ、話し相手をしてもらえる。	事業所自体が地域の一員であるとの姿勢が堅持されている。近所づきあいや地域の行事への参加、又事業所が催す行事等を通して、地域住民との交流を積極的に進めており、地域との相互関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人たちに、正しい認知症の理解を求め、機会の都度、地域で安心して暮らせるように、認知症の話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回実施。施設での取り組み、行事などの報告を行い、自治会長、地域包括の方々から地域の取り組み時状況を聞き、地域の一員として参加できるように取り組んでいる。	定期(2か月に1回)開催の運営推進会議には、家族代表、自治会長、包括センター担当者等が出席している。事業所、自治会双方が取り組み状況等を報告し、話し合いを行い、そこでの意見を共にサービス向上や活動の強化に活かしている。又、参加者への接待は利用者が担当している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連絡を密にとり、市と協力関係に勤めている。また、ケアサービスの取り組みについても提言している。	市及び包括センター担当者とは日頃から密に連絡を取っており、事業所の現況や方向性について積極的に伝えている。又ケアサービスに取り組む上での医療連携の重要性及び体制の整備等についての提言を折に触れて行いながら協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、正しく理解している。施設内での勉強会、施設外の研修にも参加している。玄関も施錠しておらず、ケア者の付き添い、見守りにより、自由に生活している。	代表者及び全ての職員は身体拘束となる具体的な行為を正しく理解しており、内部及び外部研修で再確認をしている。予測ケアの実践により、拘束を要する事態が生じる事はない。玄関の施錠は自宅生活と同様に夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内、施設外の研修で、徹底に努めている。日々のケアの中で、虐待につながる言葉になっていないか等、スタッフ間で注意ができるよう共通認識をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設研修をしている。当施設でも、過去に利用者があり、周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、納得のいくまでお互いに話し合いを行っている。どのような質問にもお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やイベント時、その他機会を設けては、話しやすい環境を作っている。それらは、運営に反映できるように考えている。	家族等の訪問は頻繁になされており、意見、要望を表せる機会ともなっている。行事開催時や電話等で聞き取る場合もある。又運営推進会議は家族等が外部者に意見、要望を表せる良い機会である。事業所は話しやすい環境作りに努めており、意見、要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と主任等が毎月会議を行い、代表者より運営等の状況報告を受けたり、主任がスタッフの代表となりスタッフの意見を報告している。	定期開催の全体会議や管理者会議、定期かつ随時に開くユニット会議が、運営に関する職員の意見、提案を代表者や主任等が聞き話し合う機会となっている。又、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、職員の把握をしており、個々的に確かな指導が受けられる。また、入居者の状況把握もされており、ケアをしていき中で、状態が良くなった時は、一緒に喜んでくれるため、やりがいを感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、全国大会等の参加を積極的に勧めてくれる。個々のスタッフの力量を把握されており、個々に応じたアドバイスをくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の認知症研修の実習生の受入れ等を行っている。地域包括圏域でネットワーク作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時に、ご本人、ご家族様と十分に時間を使って聞きだせるような関係構築を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から、不安、要望をしっかりと聞き、支援することによる変化などを、定期的に報告し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を聞き、ご本人にとって何を一番優先すべきかを考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、できないこと、得意なこと等を把握し、一緒にできるように支援している。そのような中で、人生の先輩にいろんな事を教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時等には、十分話し合いをして作成している。どのような支援をしているのか理解してくれている為、協力が得られる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係継続の支援は継続しているが、ご本人が忘れてしまっている事が多い	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めており、友人、知人や恩師の訪問、家族同伴でのコンサートやランチへの外出、家族又は職員同伴での理美容院への外出等が実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人、気の合わない人の関係を把握しながら、その人の状態に合わせて、時々にはスタッフが介入し、関わりをもてるよう、話題を提供したりして支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、継続して関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアの中で、気付いたり、感じ取ったりしている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合には、利用者の日々の行動や表情からの気付きを、職員間の話し合いで共有しながら、本人の思いにそったケアサービスの実践に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に徹底した情報収集を行うと共に、ご本人とのコミュニケーションからと疑問点は、再度ご家族からの情報をえるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、コミュニケーションにより現状を把握し、スタッフ間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の状態の変化があった時は、スタッフ間ですぐに話し合いを持ち、ケアプランの変更を行い、現状に合ったケアを提供している。	介護計画作成時には、本人、家族等の関係者と支援内容を十分に話し合い、それぞれの意見やアイデアを計画に反映させている。モニタリングによる評価を次の計画に繋げると共に、利用者の状態の変化に応じて随時見直しを行い、現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテへの記録と、申し送り等で、スタッフ間の情報共有をおこなっている。気づきや工夫についても、申し送りをし、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のニーズに対応し実施している。ニーズを伝えやすい、関係づくりを積極的に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を積極的に取り入れるような支援につなげている。季節ごとのボランティア等。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人、ご家族の希望により異なる。往診時には、小さな変化、状況の報告をしている。適切なアドバイスを受けている。	かかりつけ医の選定は本人及び家族等の希望に基づいている。事業所の連携医による定期の往診が実施され、外部の医療機関については原則的に家族等による受診である。事業所作成のサマリーを用いて連携を図りながら、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の日常の変化や観察したこと等を報告し、申し送り時など、訪問時等にアドバイスを得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者への情報提供は積極的に行い、家族との情報交換も頻繁に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態を見ながら、ご家族に説明を行い、終末期に向けてのご家族の希望を聞き、スタッフで共有し、ケアの方向性を考える。ご家族には、当施設の看とり指針を塾読していただく。	終末期は自宅で送る事が本来のあり方であると考えているが、困難な場合があるのも現実であるため、対応が可能な体制を整えている。早い段階から事業所の指針を説明し、本人、家族等との話し合いで希望を確認しながら、医師等の関係者と共にチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施。スタッフで状況に合わせた訓練の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。年2回、日中と夜間設定の訓練を実施。入居者の状態変化時には、避難方法をスタッフ間で確認している。	消防署員の立ち会いを受けて、年2回、日中及び夜間を想定しての避難訓練を実施している。独自のマニュアルを作成し、利用者の状態に合わせて確認や見直しを行っている。又地域の避難場所としての役割を果たす為物品の備蓄を行う等地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人が生きてきた歴史を知り、人格を尊重し、その人の人生に合わせた言葉かけや、対応をしている。	利用者への言葉かけの際には、本人のこれまでの生き方を尊重しながら、家族等からの情報を参考にして本人が心地良しとする呼称を用いている。又トイレ誘導時等の声かけも、さりげなくされている。利用者一人ひとりの個人情報については責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような場面でも、自己決定ができるように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に、入居者の視点に立ち、一人ひとりの支援を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の状況に合わせて、洋服を一緒に選んだり、髪を切りに行くときも、どのような髪形が似合うか等、一緒に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き、メニューに取り入れている。季節感を出す献立に心掛けており、調理、盛り付け等を一緒におこなっている。	利用者の希望を取り入れながら、旬の食材を用いる事を心掛けている。利用者一人ひとりが持てる力を活かし、職員と一緒に準備や食事、後片付けをしている。介助を要する利用者についても、職員は介助のみに専念する事なく、一緒に食事を楽しんでおり、和やかさが一層増した食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックを行い、食事量、水分量の把握をしている。状態にお応じて食事、水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた、清潔保持を実施している。口腔ケアについては、歯科医師から褒められている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人排泄パターンをスタッフ全員が把握している。個人の排泄パターンに合わせ、声かけ、誘導をしている。パターンの変化は、申し送りによってスタッフが共有し、声かけの時間を調整している。	チェック表の利用により全職員が利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、パターンの変化にも情報を共有しながら適確に対応している。利用者によってはパッドやリハビリパンツ(夜間)を用いているが、目標はあくまでもトイレでの排泄や排泄の自立であり、職員は利用者一人ひとりの力を確信しつつ支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターン、質、量等をスタッフ間で共有しておき、繊維の多食べ物をメニューに取り入れたり、野菜ジュース、ヨーグルト、ヤクルトなどを飲用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全員が毎日入浴している。希望の時間や、タイミングに合わせて、声かけや、個々の入浴の好みを配慮して支援している。	利用者の入浴希望時間はほぼ夕食の前後で、希望通りの毎日の入浴が実現している。入浴拒否等があった場合には体調を確認した上で、無理強いせず、タイミングを見計らう等工夫しながら職員間で協力し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じ、お昼寝の支援や、就寝時間を把握し、声かけを行っている。ここに合わせ、居室内の湿度、温度調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の飲んでいる薬は、何の治療薬か把握し、副作用、対処方法についても周知しており、適切な指示で服用している。変更時は、申し送り等で徹底している。常に、症状の変化に注意し、観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好き嫌いを把握し、献立を変化させている。飲酒をたしなまれている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	初午には、餅拾いにでかけ、花見は、地域の神社に出かけ、納涼際には、地域の方々との触れ合う機会を作っている。ご家族とランチに出かけたりもする。	散歩には日常的に出掛けており、近所の人との交歓や、季節の移ろいを実感できる良い機会となっている。又スーパーへの買い物や、初午の餅拾い、花見等外出の機会も多い。事業所で催す納涼祭には地域の方々の参加、協力が得られ、交流の絶好の場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、ご家族と相談の上所持したりしているが、基本は必要であれば、立て替えとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、お礼状など時期に合わせて書けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光と風を常に意識している。湿度、温度計を設置し、快適に過ごせるよう配慮している。大きなカレンダー、新聞等で日にちを分かりやすくし、季節に応じた花木で季節感を感じていただき、食事も旬の食材を使用している。	天窓からの柔らかな陽光、窓からのさわやかな風は居心地の良い共用空間を演出している。手製の大きな日めくりや新聞、飾られた花等から生活感や季節感が醸し出され、利用者は日中は共用空間で思い思いに過ごしている。全職員が日常的に注意を払い暮らしの場を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内にソファ、椅子を配置し、入居者同士で話せたり、スタッフと話したり、玄関の外、ウッドデッキにもテーブル、椅子を配置し、外の景色を見ながら、会話を楽しむ工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、ご家族と相談し、今まで過ごしていた環境を再現できるようにしている。置物を置いたり、ご家族の集合写真を貼ったりと、個々の部屋となっており、ご本人が自分の部屋とわかりやすくなっている。	利用者が過ごしてきた自宅との環境の差を感じさせないよう、持ち込まれた物品の配置等は本人や家族に任せている。それぞれが特徴のある居室となっており、自室の識別にも役立っている。職員は利用者一人ひとりのプライバシーを大切にしながら、安心して過ごせる環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは、個々のできる事を把握し、状況に応じて、声かけ、見守りをし、自立支援を行っている。		